

曲目解説

研究熱心な各校顧問の選曲により、毎回充実したプログラムで注目されているジョイントコンサート。今回も新作・話題作が満載の熱いプログラムでお送りします。解説も頑張って書きます。お楽しみに！

各校演奏

●ルーマニア民俗舞曲

Romanian Folk Dances

(I) 棒踊り、(II) 帯踊り、(III) 足踏み踊り、(IV) アルペンホーンの踊り、
(V) ルーマニアのポルカ、(VI) 速くて細かいステップの踊り

バルトークは作曲家、ピアノ演奏家、民俗音楽研究家として活躍した。バルトーク自身が採集したルーマニアの民俗音楽に基づき、1915年に6曲構成のピアノ組曲が作曲され、1917年には管弦楽版も作られた。現在では吹奏楽やアンサンブルなど、さまざまな演奏形態にアレンジされて親しまれている。堂々とした第1曲、軽快な第2曲、東洋の影響がみられエキゾチックな第3曲と第4曲、急速な第5曲、華やかなフィナーレの第6曲という構成である。

B. バルトーク (編曲: 山本教生)

Bela Bartok (1889-1945: ハンガリー)

●愁陽の路

Sentimentale

八木澤教司

Satoshi Yagisawa (b.1975: 日本)

八木澤教司さんの紹介は別の曲でします。この曲の原曲は、2003年作曲の「トランペット協奏曲」第2楽章である。この楽章は大変美しいコーラルで多方面より高評価を得ていたが、ソリストが居ないと演奏できない「協奏曲」のため、取り組みにくい曲でもあった。そこで作曲者自身がこの楽章を吹奏楽曲に作りかえ、タイトルも「愁陽の路」とした。2015年出版。

●バレエ音楽「ガイーン」より

From "Gayaneh"

A. ハチャトゥリアン (編曲: 中原達彦)

Aram Khatschaturian (1903-1978: 旧ソ連)

1942年初演の「ガイーン」は全4幕のバレエ作品である。内容を簡潔にまとめると、アルメニア(ソ連)の集団農場(コルホース)の会長の娘ガイーンと、そこでの出来事を描いたもので、最後には全て丸く収まり、フィナーレは人々の友情と、ソ連邦の国々を祝福して終わる…といった内容である(かなり大雑把だが)。2時間半の舞台上で使われる音楽より、序曲、友情の踊り、剣の舞、アイシャの孤独、収穫の踊り、以上5曲を編集して作られたのが本作である。

●忠臣蔵異聞 - 卷之壱、卷之参 -

Chusingura Ibun

天野正道

Masamicz Amano (b.1957: 日本)

年の瀬と言えば「忠臣蔵」。これまでも多くの映像や音楽で描かれてきたが、映画音楽でも実績のある作曲家、天野正道さんは少し変わった方法で忠臣蔵を描いた。それは、この物語を題材とした上映時間約2時間の架空の映画を構想し、台本やコンテを作り、各場面に合わせた音楽を作曲、これを編集して組曲を作るという方法である。プロローグは主君の墓の前で泣き崩れる家臣から始まる。今回演奏する卷之壱、卷之参の内容は次の通り。2008年出版。

★卷ノ壱[第1楽章]: 美しい赤穂の自然、吉良のイジメと浅野の苦悩、松の廊下での殺傷事件

★卷ノ参[第3楽章]: 有名な赤穂浪士の吉良邸宅への討ち入り。そして泉岳寺へ。

●スピリテッド・アウェイ 「千と千尋の神隠し」より 久石譲・木村弓(編曲:森田一浩)

Spirited Away

Joe Hisaishi & Yumi Kimura

2001年夏に公開された、スタジオジブリ制作の長編アニメ映画「千と千尋の神隠し」から、さまざまなシーンの音楽をセレクトして作られた曲である。使用されている曲は、①カオナシ、②あの夏へ、③底なし穴、④湯婆婆狂乱、⑤いつも何度でも、⑥ふたたび、以上6曲である。美しいメロディにより情感豊かな世界が見事に表現された名曲である。2010年出版。

●カノン Brass Rock

Canon Brass Rock

J. パッヘルベル(編曲:郷間幹男)

Johann Pachelbel (1653-1706:ドイツ)

ドイツの作曲家パッヘルベルは、宗教曲・非宗教曲を問わず多くの楽曲を制作した。オルガン奏者、教師としても知られている。彼の有名な楽曲に「カノン」があるが、本作はこれをロック調にアレンジした斬新な曲である。冒頭はカノンが原曲のまま演奏されるが、やがてノリノリのロック調となる。聴衆にも驚きを与えること間違いなしのアレンジ。2008年出版。

●ゲルダの鏡

A Mirror of Gerda

樽屋雅徳

Masanori Taruya (b.1978:日本)

樽屋雅徳は千葉県出身の若手作曲家。吹奏楽曲を数多く手掛けており、コンクールや演奏会で聴く機会も多い。この「ゲルダの鏡」は2010年出版。作曲者による次の楽曲解説が詳しい。

昔、悪魔が、美しいものはゆがんで見え、醜いものはきれいに映す恐ろしい鏡を作りました。ある日、その鏡が粉々に割れ空から舞い、小さな男の子カイの目、そして心へ入り込んでしまいます。冷たい少年に豹変したカイは、ある雪の日に冷酷な雪の女王に連れ去られてしまいます。そこで、仲良しの女の子ゲルダがカイを探し求め大冒険へ出る…という、アンデルセン童話をもとに曲は進みます。

旅の途中、たくさんの人間・動物たちに助けられたゲルダですが、何よりも一番の力だったのは、彼女自身の中にある優しく汚れない気持ちでした。人間は時には、羨ましさのあまり人を妬んでしまったり、純粋なものをけなしてしまったり悪魔の『鏡』のような心になってしまう時があります。

ゲルダがカイを想い続けたように、優しく汚れない真っ直ぐな心に勝るものはないのだと気付かされます。鏡の出現、カイが連れ去られゲルダの冒険、そして2人が再会し、手を結び故郷の町へと帰るまで大きく三つの場面に分けて曲も場面展開していきます。

●アイヌ民謡「イヨマンテ」の主題による変奏曲 福島弘和

Variations on a Theme of Aynu Folk Songs "Iyomante"

Hirokazu Fukushima (b.1971:日本)

アイヌ民謡のイヨマンテの歌より



福島弘和さんは吹奏楽を中心に作曲活動を行っている。いずれの作品も評価は高く、各種演奏会やコンクールで聴く機会も多い。

この曲は北海道に伝わる、アイヌ民謡のイヨマンテ(熊の霊を送る儀式)の中の歌を主題とした変奏曲である。作曲者いわく、アイヌ民謡と東欧の響きには共通点があり、本作を作曲するにあたり、ハンガリーのZ. コダーイ(1882-1967)の名曲、「くじゃく変奏曲」を意識して曲作りを行ったという。第12変奏まであり、表情豊かに展開されていく。2006年作曲。